

近畿支部活動報告（2023年秋以降）

名前に添字のある方は女性、○は期です。

2023 10/30(月)	君影RGと妙号岩Pw（企画 高村c、加藤s）参加者8名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯	
鈴蘭台駅＝陸橋下BS～君影RG～妙号岩～縦走路～鶴越駅＝湊川駅～池長植物研究所跡～中央市場前駅	
2023 11/20(月)	高槻三好山、神峯山寺紅葉Pw（企画 三宅）参加者10名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、赤地⑫、高村c⑮、間所m⑮、三宅⑮、井上⑯	
JR 高槻駅＝神峯山寺口BS～神峯山寺～原の登山口～三好山山頂～塚脇橋～芥川宿～JR 高槻駅	
2023 12/20(水)	平城坂Pw（企画 加藤）参加者6名
篠島⑧、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、三宅⑮、井上⑯	
近鉄奈良駅～天極堂・押上BS＝般若寺～空海寺～二月堂茶所～開山堂～南大門～奈良博物館(解散)	
2024 1/31(水)	かしはら水仙郷と高尾山Pw（企画 三宅）参加者9名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、森川⑪、野村⑫、宇野⑮、宇野a⑮、三宅⑮、井上⑯	
JR 柏原駅～鐸比古鐸比賣神社～登山口～夫婦岩～水仙群生地～高尾山～展望地～登山口～JR 柏原駅	
2024 2/16(金)	甘南備山と一休寺Pw（企画 加藤）参加者11名 2/15(木)を雨天延期
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、野村⑫、宇野a⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯ 一休寺バ:高田⑩	
JR 松井山手駅～コープ京田辺～野外活動センター～甘南備山～薪神社～一休寺～JR 京田辺駅	
	
2024 4/5(金)	明石城・花見Pw（企画 宇野）参加者7名 3/28(木)を雨天延期
伊豫⑧、黒崎⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、宇野⑮、鈴木⑮、三宅⑮	
JR 明石駅～明石城三ノ丸～本松寺～子午線標示柱～明石城・剛ノ池～天守台～JR 明石駅	
2024 4/25(木)	京都・当尾の石仏めぐりPw（企画 三宅）参加者11名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、野村⑫、宇野⑮、宇野a⑮、鈴木⑮、三宅⑮、井上⑯	
JR 加茂駅＝(バス)＝岩船寺～貝吹岩～わらい仏～浄瑠璃寺～大門仏谷石仏～山の家BS＝JR 加茂駅	
2024 5/17(金)	六甲・シェール道Pw（企画 加藤）参加者9名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮	
神鉄:北鈴蘭台駅＝(送迎バス)＝森林植物園～東門～桜谷～(シェール道)～穂高湖(一旦解散)＝摩耶山＝山麓駅	
2024 6/13(木)	武庫川廃線跡Pw（企画 井上、加藤）参加者5名
加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、三宅⑮、井上⑯	
JR 武田尾駅～(武庫川廃線跡)～武庫川水管橋～西宝橋～JR 生瀬駅～浄橋寺～宝塚水管橋～宝塚駅	
2024 10/9(水)	古知谷阿弥陀寺Pw（企画 加藤）参加者9名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、野村⑫、宇野a⑮、三宅⑮、井上⑯	
京都地下鉄:国際会館駅前BS＝(京都バス)＝大原BS～古知谷～阿弥陀寺(往復)	
	

7～9月の休業期間を除き、好天に恵まれ毎月実施という近畿支部にとって珍しい1年でした。

君影ロックガーデンと妙号岩 Pw

・実施日 2023 10/30(月) 報告 加藤 (11 期)

「あそこが君影ロックガーデン(RG)で・・・」。このPwの前年のこと、菊水山Pwを企画してくれた高村さんから初めてその地名を聞いた。「君影」を冠した名前だったので、私にとってある意味でなおさら新鮮に思えた。



小学生の遠足地『君影ロックガーデン』

六甲山を横断する登り下りが急な登山電車のような神戸電鉄。そのほぼ上り詰めた標高 約 300m の位置に鈴蘭台駅がある。開通当時は小部駅だったそうである。六甲山の裏側には古代から開けた山田村がある。そこから尻尾のように谷を上り詰め少し開けたところに小部の集落がある。山田村の本体から見れば「尾部」のような場所である。

ところが、神戸が大会になるにつれ、避暑地として発展、S 7 年には鈴蘭台駅と改称。ここがスズランの自生地でも何でもないので、その涼しさのイメージだけでつけられた駅名という。さらに平地の少ない神戸の住宅地がここで爆発的に発展し鈴蘭台の大住宅地ができた。その後、住宅地が山上まで発展し、名に窮したのか「君影」名が使われている。君影草は鈴蘭の別名なのだ。

元々本年6月の企画であつたが雨で中止、秋の企画となった。企画者は高村 c & 加藤 s の女性コンビである。企画に際し、当初は鈴蘭台駅から起伏のある住宅地を登る計画だったが、その奥の秘境？妙号岩のてっぺんまで行く道を見下ろし確認、しかも展望はこちらの方が優れているので、住宅地の登りはバス、それはバスで代用し、余った時間で妙号岩にも立ち寄る計画へと変更したのだ。

秋晴れの当日、集合場所の駅改札口には定刻前にも拘わらず、買い物もトイレも済ませた全員が

集合した。バス乗り場に移動後 10 時 5 分のバスに無事乗車することができた。約 10 分の乗車で有難くも今日の最高地点近くに着いた。陸橋のあとトンネルを抜けるなど変化のある住宅地をやや登りきるとそこがイガヤ谷東尾根登山口であつた。

登山口なのに道をやや下る。いきなり山中だ。二重稜線で道の選択が少しややこしいが5分後には今日唯一の三角点に着き、11 時前に君影RGに着いた。東向きの稜線が林から岩場になるとそのまま絶壁で落ちている。北の方は鈴蘭台の住宅地、東の方の急峻な崖の上は菊水山だ。

約 10 分の休憩で次の妙号岩に向かう。道を知らなければ元に戻り、もう一方の二重稜線を行けば良いが、下見により巻き道を見つけていたので、巻き道の方を選んだ。稜線道はほぼ平坦な気持ちの良い灌木林の一本道である。30 分弱で妙号岩の分岐、そこから細尾根となる道を約 10 分進み妙号岩に着いた。ここも花崗岩であるが、風化によりできた真砂土が岩の上にたまりと乗っていることが君影RGと違う。しかも、てっぺんは狭く、かつ、垂直に下の谷まで見通せるので、高所恐怖症の人は必ずやビビる場所であろう。1 年前に向かいの菊水山に登り、下の谷を歩いた我々であるので、歩いた道や休憩した石井ダムなどが眼下に見え懐かしい。南は遠く神戸の港まで見える。ダムと並行する鉄橋を神鉄の電車がジオラマのように渡っていく。ここが昼食の場所なのだ。

井上さんがカボチャを使ったドイツパンを持ってきたてくれた。自家製である。さすがのドイツパン、それだけで腹にどっしり来た。いろんなザックからいろんな菓子が出てきた。それらを賞味した。1 時間も滞在しただろうか。



『妙号岩』のてっぺんにて、下は石井ダム

妙号岩を過ぎると後は下るだけ、しかしここからは水平な道が続き、最後にいきなり約 200m の

急坂を下る。最後の笹地には少し手こずった。こんなところで六甲の南面が断層地帯であることを実感できるのだ。最後には菊水山と須磨アルプスをつなぐ六甲全山縦走路に出た。神鉄鶴越駅の少し手前にある小公園では、伊豫さんが淹れるコーヒをいただき、今日の山歩きの部は終わった。

後半は神戸の街歩きである。NHKの「らんまん」はあくまでもドラマでのお話、実は書籍購入や植物採取旅行のため借金王になってしまった牧野富太郎、若き神戸の資産家であり京大の学生であった池長孟(パング)の助けがなければ、あの歴大な数の標本は散逸の運命にあった。しかも池長は牧野のために神戸に植物研究所まで準備したのだ。それでも池長にとっては、牧野による植物標本館が出来れば、当時、文化施設に浴せなかった神戸市民への貢献になるとの思惑もあった。しかし、池長と牧野の価値観の違いから、一度も市民に植物標本が展示されることなく二人の関係は悪化した。結果的には、標本が神戸で保管されていたので関東大震災で焼失することもなかったし、最後には池長は標本のすべてと研究所で購入した書籍を牧野に寄贈することで和解したのだ。



『植物研究所跡』（現在は会下山公園）

今回はその植物研究所跡に立ち寄り、最後に神戸港の基礎となった兵庫津の史跡をいくつか回った。かなり欲張りな計画であったが、天候にも恵まれ良く歩き17時半頃解散した。

高槻三好山、神峯山寺紅葉Pw

・実施日 2023 11/20(月) 報告 三宅 (15期)

「三好山 (182m)」は大阪府高槻市を南北に縦断する芥川の中上流域に位置し山頂からは眼下に摂津峡公園、遠く生駒山から大阪市内まで大阪平野が一望出来ます。戦国時代、この天然の要害を利用し「芥川山城」が築かれ、時の天下人「三好長慶」が政権を執っていました。現在も土塁や曲

輪(くるわ)、石垣があり当時をしのばせます。芥川山城は織田信長の攻撃により落城しますがその後入城し、都の新しい支配者となったことを天下に知らしめるため天皇の使いを迎えたり、畿内の要人と対面したそうです。そのシーンは大河ドラマ「麒麟がくる」で放映されました。



『神峯山寺』の山門

「神峯山寺 (かぶさんじ)」は三好山のさらに北部にある寺院で697年に開山された古刹です。日本で最初に毘沙門天が安置された霊場として三体の毘沙門天が本尊として祀られています。自然豊かな山に囲まれ春は新緑、秋は紅葉の名所です。

今回のPWではJR高槻駅を出発し最初に「神峯山寺」を参拝。その後「三好山」に登り下山。芥川沿いの遊歩道を歩きJR高槻駅に戻るコースにしました。

JR高槻駅に10時集合。福井から間所mさんが参加で総勢10名。高槻駅からバスに乗車20分神峯山寺口バス停下車。緩い参道を歩20分で神峯山寺到着。仁王門をくぐり見頃となった紅葉の参道を歩き本堂にて参拝。境内の観音堂、開山堂などがいっぱい紅葉に覆われ美しい。鐘楼堂で思いっきり鐘をつき御朱印をもらった後、境内を出て「ポンポン山」への山道を5分程上り紅葉に囲まれた広場へ移動し昼食。この時突然Iさんが切り株につまずき転倒するハプニング。メガネが傷んだものの大事に至らなくて本当に良かったです。



神峯山寺うらの公園（紅葉が見事だった）

昼食後、高槻市原地区ののどかな農道を40分程

歩き三好山登山口へ。ここから緩やかな 30 分の登りで三好山山頂。主郭があった山頂は広く三好長慶を祀った祠があります。恒例の大中小ゲームをして記念撮影。



『三好城』本丸横（展望良好）

天気も良く南に広がる大阪平野。その背後に壁のようにつながる生駒山、金剛・葛城山の雄大な景色を楽しみました。多くの土塁、曲輪を見ながら下山。途中で高さ 2 メートル以上もある石垣を見ました。三好山山頂から下山 30 分で芥川に架かる塚脇橋。ここから淀川に向かって流れる芥川沿いの遊歩道を 40 分程賑やかに喋りながら歩きました。先頭に行く女性若手 3 人衆が余りに早く歩くのでついて行くのに苦労された方もおられたようです。途中カワセミにも出会えて良かったです。

「西国街道」に合流し「芥川宿水門跡」を見学。ここは江戸時代の宿場町「芥川宿」の西口にあって芥川の増水時には止水板をはめて宿場への浸水を防ぐのですが、その際の止水版のはめ方の解説を加藤氏から聞きました。「高槻まちかど遺産」となっているそうです。次に「西国街道」を東に少し歩くと「芥川一里塚」があります。小さな祠があり後ろには榎の木が植えられています。ここで Pw 最後の集合写真を撮って JR 高槻駅へ向かい 5 分程で到着し 16 時 30 分解散しました。

天気も良く、紅葉も見頃で良かったのですが、芥川沿い遊歩道が少々長かった様でした。

平城坂 Pw

・実施日 2023 12/20(水) 報告 加藤 (11 期)

本当は「奈良坂」なんだろうけど「平城山」の歌の雰囲気をも Pw に付与したくてこの名称を使った。近畿での冬は歩くのには良い季節。場所は超有名な東大寺の周辺。が、有名な点と点の間の意外と知られていない場所を歩き、季節外れで観光客の比較的小さい隙間を見て歩く企画とした。

また、ほぼ昼近くの食事から始まる Pw というのも珍しいだろう。

トイレなどを済ませ、近鉄の奈良駅を出発したのが 10 時 20 分。吉野葛で有名な「天極堂奈良本店」での軽食をという魂胆だからこの時間で充分なのだ。駅から才媛が通う奈良女子大に続く小路に入り、文化会館の裏から西大門跡付近に出る。東大寺には創建当時、平城京に面する形で西大門があったという。天正時代に倒壊し、以降再建されなかったとのこと。ただし、その扁額は奈良博に保管されているという。天極堂はその西大門跡地にあるというのもこの Pw にとって嬉しい。

駅から約 15 分で西大門跡に到着。やはりこの時間が正解。すぐに着座できたからである。天極堂の名物は葛餅であるが、他に目がくらみ「葛切りぜんざい」「うどんセット」「茶粥セット」を食った者もいる。食意地の某は、それでもやはり葛餅は外せないとして追加注文してしまったらしい。

大通りはなるべく避ける方針だから、ここからはバスで般若寺に向かった。乗車は 3 分ぐらいだが我々の足ではたつぷり 30 分はかかるだろう。

般若寺は以前と違い南から入るようになっていた。境内に入ると季節はずれのコスモスの花に、驚きの笑みがこぼれた。しかも、今日の境内はほぼ貸し切り状態なのだ。



般若寺の『十三重石塔』を背景に

般若寺の創建は飛鳥時代という。が、平家の南都焼き討ちで焼失、その再建には「叡尊」をはじめとする真言律僧の人々が多く関与している。また、東大寺再建のため宋から渡来した伊派の石工たちもだ。寺内の石造物の主要なものは彼らの手によるものだという。まず、目に入るのが十三重の石塔。高さは約 14m。この時代に作られたこの種の石塔としては宇治の中之島にある塔に次いで日本第 2 の高さを誇る。しかも十三段も重ねて倒壊しないというのは当時としては超高度な技術だったのだ。石仏もたくさんある。石造物を見ていて、私は南北朝に活躍したという叡尊の孫弟子に

あたる「文観」を思っていた。

さらに本堂に入ってアッと声を上げた。文観が作らせたという本尊の文殊菩薩像が目の前にあったからである。触れるくらいに近い。後醍醐天皇の護持僧であった文観は当时空海の再来とまでいわれ、当時の多くの美術に関与しているといわれている。いちど見たいと思っていたからである。期待以上だったのに、じっくりと見たはずなのにどのような像だったか記憶が飛んでいる。



高級ホテルに改装中の旧『奈良少年刑務所』

般若寺から至近の旧奈良監獄へ。近々ホテルに転用とかで工事中だった。金沢監獄と共に近代的な監獄として作られただけに素敵な建物である。

佐保川を渡り、なおも裏道で東大寺へ。途中で空海ゆかりの空海寺に立ち寄る。空海が東大寺別当だったことがあることすら知らなかった。この寺の本尊は弘法作の穴地蔵であるが60年に一度公開というのでご朱印だけいただいてきた。本堂前の地蔵像も素晴らしく元矢田寺にあった由。

正倉院横の道は通じてないので、山際の道へ。大仏殿が見え、なおも歩き、ここが良いと、伊豫喫茶店が開店準備を始めたら鹿が寄ってきた。これは客ではないと慌てて閉店し、二月堂への階段へと急いだ。階段の最上部で左側の「茶所」へ。



東大寺の『茶所』でくつろぐ旅人

ここは参拝者の無料休憩所である。木造の大き

な建物、江戸時代に旅しているような錯覚さえ覚えた。東大寺の中に、「茶所」があるのを知らない人が多いだろう。セルフサービスであるが、茶碗があり、いつも湯が沸いている。今は特に有難い季節。奥にはトイレもある。壁には修二会で使った大松明が展示、係員に聞けば、伊豫喫茶もここではOK。井上さん特製のシュートレーンが絶品だった。みんなのザックからも菓子が(笑)。何か落ち着く感じでここに約40分も居たのだろうか。

二月堂で展望を楽しみ、三月堂の前に建つ伊派の手になる灯籠をじっくりと眺め、「開山堂」「行基堂」「俊乗堂」「辛国社」を急ぎ足で回り「南大門」へ。南大門では伊派による「石造」を鑑賞。表側の金剛力士像は見ているのに、裏側にこんながあると気が付く人は殆どいないだろう。それにしても不釣り合いに小さな不思議な像である。

奈良公園の奈良博に着いたのが16時半。予定より大幅に遅くなったのでここで解散とした。

かしはら水仙郷と高尾山Pw

・実施日 2024 1/31(水) 報告 三宅 (15期)



『鐺比古鐺比賣(スガヒコスガヒメ)神社』の鳥居

「大阪府柏原市(かしわらし)」は大阪平野の東部に位置し、市域の北側にそびえる生駒山系を越えると奈良県になります。ぶどう栽培が盛んで丘陵地の多くはブドウ畑となっており「河内ワイン」が有名です。また、古墳や遺跡も多くあります。生駒山系の最南端にあるのが「高尾山(278m)」です。高尾山(たかおやま)の山麓から山頂一帯が「高尾山創造の森」です。地元住民と柏原市、大阪府が協力して整備した公園で遊歩道や展望台など良く整備されており「かしわら水仙郷」があります。

今回のPwではJR大和路線(関西本線)柏原駅を出発し最初に「鐺比古鐺比賣神社」を参拝。その後「高尾山創造の森・森林浴コース」を歩き「かし

わら水仙郷」を見学。「高尾山」に登り JR 柏原駅に戻るコースにしました。

JR 柏原駅 10 時半出発。桑名から森川さん、名古屋から野村さんが参加で総勢 9 名。柏原駅前の繁華街、近鉄堅下駅前を通り 20 分で「鐸比古鐸比賣神社」の大鳥居。見上げるとこれから行く「夫婦岩」が小さく見えます。かなり長い石段を上り社殿へ。結構ハードでした。祭神の「鐸比古命」は「垂仁天皇」の御子とされており 151 年に創建されたそうです。神社からは柏原市の街並みがよく見えました。



水仙浴を楽しむ：『かしはら水仙郷』

神社の横から高尾山創造の森の遊歩道に入り 10 分ほど登り昼食。ベンチもあり水仙が咲いていて展望も良い。ここで小雨が降ってきたがすぐに止まりました。今日の天気は曇り一時雨。ここから「たにごえの道」を進み 5 分程で「夫婦岩」。高さ 3 メートル、幅 5 メートル位はあるのでしょうか。上り下りの道を 25 分で「かしはら水仙郷」に到着。ちょうど見頃。ゆるい斜面を埋め尽くすように咲いています。鑑賞路をみんなで並んで歩いていると突然 I さんが転倒。水仙の中に仰向けに埋まってしまいました。皆さん笑いをこらえるのが大変そうでした。怪我も無くて良かったです。水仙の花に埋もれた顔を撮影している方もいました。遺影写真にするそうです。たつぷりと花と香りを楽しみました。水仙郷から急な登りを 20 分で「高尾山」頂上に到着。途中で洞窟になった遺跡がありました。「高尾山山頂遺跡」と呼ばれており弥生時代から古墳時代初期のものだそうです。頂上付近は大きな岩盤が露出していて山頂直下の急峻な岸壁はでスリル満点です。



『高尾山』山頂でのお茶会

岸壁には鐸比古鐸比賣神社奥社の祠が祀られています。眼下には一級河川「大和川」が流れ柏原市、八尾市から大阪平野が一望出来ました。山頂の岩盤

の上で久しぶりのお茶会をしました。森川さんのお点前と皆さん差し入れのお菓子をいただきながら、一時間たつぷり会話を楽しみました。

山頂を 14 時半に出発し「南パノラマ展望台」に向かう。途中道を間違えましたが無事 20 分程で到着。最後の集合写真をたつぷり時間かけて撮影。加藤さんこだわりの撮影方法です。水仙の咲く下りの歩道を鐸比古鐸比賣神社にむけて気分よく降りて行くのですが何人かが滑って尻もちをついたりつきそうになったりしました。道が濡れている為なのか少し高齢になった為なのでしょう。15 時 40 分登山口鐸比古鐸比賣神社に無事到着し JR 柏原駅に向かう。駅前でちょっと新年会でもしようかという事になり店を探しましたが見つからず残念ながら 16 時解散になりました。

令和 6 年新年初めての Pw は満開の水仙の花と香りを満喫しました。あいにく天気は曇りで時々小雨でしたが高尾山頂では雨にも濡れずにお茶会も出来ました。メンバーの一部からは山頂までの距離が 500 メートルに対し標高差が 250 メートルあるので登りがきつかったとの感想もありました。転倒や尻もちもありましたがみんな笑い事ですんで良かったです。

甘南備山と一休寺 Pw

・実施日 2024 2/16(金) 報告 加藤 (11 期)

過去の Pw で登った御室や嵯峨野の低山は、京都市街を眺めるのに絶好の展望台である。そこから南に目をやると南の方に山々が連なっている。どんな山があるのだろう。地図で調べると生駒山系の北辺に甘南備(かたび)山を見つけた。標高も約 200m、山名の響きが実に心地よい。もっと調べると平安京の中央・朱雀大路の北は船岡山を基準にしたのは有名であるが、南はこの甘南備山を使ったらいい。それと知ると俄然登りたくなった。単に一般登山道の往復だけでは面白くない。いろいろ検索すると、地理院の地図には記載されていない山道があることがわかった。どうやら JR 松井山手駅から JR 京田辺へ抜けるコースが設定できそうだ。京田辺側には頓智の一休さんゆかりの一休寺もある。あの食べ物に「善哉」の名を使ったのも一休さんとある。食いしん坊の私はなおさら行きたくなった。山に慣れたワグネル OB だから、下見なしでもなんとか歩いてくれるだろう。

しばらく音信不通だった高田さん宅も近くにある。そう思って電話すると「山は無理、一休寺へは車で行くわ。」との返事。さらに当初の実施日であった2月15日は天気が思わしくないので、天気予報にしたがい、翌16日を実施日と決めた。



地形図に記載されていない怪しげな道を歩く

JR 松井山手駅に9名全員集合、野村さんは名古屋からの参加だ。集合時刻の10時にはすでに歩き始めていた。東西の大通りを西に約1km進みコープでトイレを済ませ、そこから南下し山へ向かう。山に造成した住宅地を調子に乗って歩くと、急に下りにさしかかった。おかしいと思い地図を見ると、住宅地に新しくつけられた道に騙されたようだ。少し戻り、予定の道に入った。正しい道は予想以上に細い。この迷いで約100mロスしたが、下見なしでの計画なのでメンバーも寛容だ。

京田辺市の野外活動センターを過ぎると、地形図の車道とは違い溝状の道になってきた。低山ではよくあることだ。さらに道が細くなってきて地形図でも登山道すら記載されない地点に着いた。山道はある。事前に調査し地図に書き込んだルート通りか確認しながら歩いた。こんな時は高圧鉄塔が結構に役に立つ。道はゴルフ場の柵の外側にしっかりとつけられていた。地元の人には良く知られた道なのだろう。そうこうしているとようやく甘南備山の東の登山口に達した。ここからは地形図上でも登山道が記載されているので安心だ。



『甘南備(雌山)山頂』

登山口からはやや急な道もあったが、あまり汗をかくことなく三角点のある雌山へ正午に着いた。昼食は展望を優先したが、それが逆に仇となった。展望の良い分だけ猛烈な風が我々を襲い、寒い目に遭ってしまった。日差しは暖かいが、二月の低山でもまだまだ冬なのだ。

地図上で雌山と雄山はほぼ平坦かつ至近距離と予想していたが、思ったより下り上りがあり、思ったより離れていた。それでも25分程度で雄山に着いた。山頂は小灌木が生えていて展望が良くない。直下に甘南備の小社があった。北に少し下ると京都方面が良く見える展望台があった。目を凝らすと京都タワーが見えた。ここから登山道と車道で北登山口でもある芝生公園まで約20分で降りてきた。トイレ休憩時に伊豫コーヒ店が開業、しかも店主がでっかい栗羊羹を持参。もちろん「大中小」に興じたのは言うまでもない。



『一休寺』の門前で

公園からはほぼ平坦な下り、中景に高速道路はあるがのんびりとした田舎の風景の中を歩いた。途中で高田さんから携帯電話。すでに一休寺に来ているとのこと。こちらの現在地を知らせ、寺に居るなら、人数分の善哉の用意をしてくれるように頼んだ。私の1年の時の夏合宿の時の先輩、今では優しい先輩に変貌している。

薪(タギ)神社に、無事下山した旨を報告し、一休寺には14時20分に着いた。高田さんが出迎えてくれている。本当に久しぶりの再会だ。

一休寺は正式には「酬恩庵」という。鎌倉時代創建の妙勝寺を前身としながらも荒廃、一休禅師が再興し、また、現在の伽藍の多くは第3代加賀藩主前田利常の寄進により再建された。

門をくぐり庫裏の玄関で靴を脱ぐと、庫裏の部屋に通された。漆黒のお椀に入った善哉をいただきほっこりする。これで山から下りてきた気分か

ら日常に切り替わった。方丈の廊下から三方向(南東西)の趣の異なる方丈庭園をゆっくりと眺めた。この時期の平日の遅い午後、ほぼ貸し切り状態だから足を伸ばしのんびりできる。さらに靴を履き本堂、開山堂やそのあたりの庭を思い思いに歩いた。二月なのに苔が綺麗だった。京都の市街地から随分と離れているが、不思議と京都を感じた。こんなに静かで良いところもあるのかとも。一休禪師はここを再興してから、死ぬまでここで過ごし、大徳寺の住持となつてからもこの酬恩庵から通つたという。さもありなんである。

最後に、門前近くと隣の駐車場で記念写真を撮った。背景には梅の花が咲いていた。

高田さんと別れ、我々はJR京田辺の駅まで地図を見ながら裏道を選んで歩いた。駅までは約25分だった。寺の庭で掃除をしていた小僧時代の一休さんの銅像が、駅前にまで見送りに来ていた。

JR京田辺駅16時半に解散した。

明石城・花見Pw

・実施日 2024 4/5(金) 報告 宇野 (15期)

桜100選の明石城で花見を目的で企画しました。暖冬ながら桜の開花が遅れ、やっと8分咲きの予報が出たときの実施となりました。

明石といえば、明石タコ、明石鯛、明石焼きなど食べ物を思い浮かべる人がほとんどだと思います。明石にお城が有ったの？という人もいます。学校で習った東経135度子午線が明石を通っていることを、あ！そうか、と思い出す人もいるでしょう。よって、今回の計画は、花見のおまけに明石の歴史をたどる旅としました。



『明石城天守台』にて(後ろに見えるのは坤櫓)

まずは明石城からあるきます。ここで質問！！
問い “石垣の左右に櫓が非対称にそびえています
が、天守閣がありません。なぜでしょう？”

答え “天守閣は元々造られませんでした。理由は時代背景にあります。” また、明石城下の町割り(設計)をしたのは、かの有名な「宮本武蔵」です。「へー知らなかったー！」です。 武蔵が造った庭園はお城の中や「時の道」の途中にあります。



『剛ノ池』の桜並木

「明石城」からは「時の道」を辿り、「明石立天文科学館(明石天文台)」まで往復しました。

(「時の道」は次の①～⑮順で歩きました。)

- ① 明石公園の「とき打ち太鼓」を皮切りに
- ② 武蔵の「庭園」・・・お城を出て
- ③ 「上の丸弥生公園」(明石原人も住んでいました)
- ④ 「明石神社」(とき打太鼓の本物)
- ⑤ 「大聖寺」
- ⑥ 「明石上ノ丸教会」(日本では珍しく
日時計が建物の正面に付いている)
- ⑦ 「妙見社」(武将「嶋左近」ゆかりの寺)
- ⑧ 「本松寺」(宮本武蔵の枯山水)
(なぜか? 「ジャイアント馬場夫婦」のお墓)
- ⑨ 「亀の水」(播磨三名水の湧き水)
: ペットボトルを持って人が来る
- ⑩ 「雲晴寺」
(南総里見八犬伝のモデルとなった里見忠義公の
供養塔、宮本武蔵の庭、武蔵の孫弟子の墓石).....
そして
- ⑪ 「日本標準時子午線標示柱(トンボの標識)」
(近所に「松本零士」が住んでいて、いつも星を眺
めていたそうー「銀河鉄道999」を発想する)
- ⑫ 「蛸壺塚」(松尾芭蕉の碑)
- ⑬ 「人丸山」 標高: 24.6m 本日の最高峰
- ⑭ 「月照寺」
神仏分離令で柿本神社と分かれる
- ⑮ 「柿本神社」(柿本人麻呂を祀る)
- ⑯ 「明石市立天文科学館」これよりもどる
(65歳以上の明石市民は一般観覧料が無料)
- ⑰ 「長寿院」(明石藩主である松平家の菩提寺)
- ⑱ 明石公園に着きました。

歴史有る明石を堪能した春の一日でした。

京都・当尾の石仏めぐりPw

・実施日 2024 4/25(木) 報告 三宅 (15 期)

木津川市の「当尾(とうの) 地区」は京都府南端、奈良県との境にあります。「浄瑠璃寺」や「岩船寺」などの古寺や鎌倉時代の「石仏」が点在しており「石仏の里」として知られています。鎌倉、室町当時には行きかう人々を優しく見つめてくれる道しるべだったのでしょう。そんな石仏を見ながら、京都府木津川市の「岩船寺」から「浄瑠璃寺」までのんびりと巡るウォーキングを計画しました。

JR 大和路線「加茂駅」に 10 時 15 分集合。名古屋から野村さんが参加で総勢 11 名。

10 時 44 分発の木津川市コミュニティバスに乗り 15 分で「岩船寺」に 11 時到着。「岩船寺」は 729 年聖武天皇が行基に命じて阿弥陀堂を建立させたのが始まりだそうです。山門をくぐると朱色の鮮やかな三重塔が目をはきます。室町時代に建てられたそうです。まずは本尊の重要文化財「阿弥陀如来坐像」(高さ 3m はあるでしょうか) を拝観し、その後本堂の裏山にある「貝吹岩」まで登りました。大きな岩で貝が二枚重なっているように見えました。ここから「ほら貝」を吹いて連絡などをしたそうです。

眼下には山城地域一帯が一望できました。昼食は境内にある広場でしました。ベンチもあって快適でした。私達が境内にいる間、ずっとテレビ局の女性とカメラマンらしき人がお寺の僧侶とインタビューのような事をしていたのが気になりました。後日知ったのですが、NHK のスタッフが 4 月 27 日から特別公開される三重塔の内部壁画紹介の番組撮影に来ていた事がわかりました。



岩船寺の『十三重石塔』と『三重塔』

境内を出てすぐ横にある白山神社(重要文化財)にも参拝し、いよいよ石仏めぐりのスタートです。

岩船寺から緩やかな登りを 10 分ほど歩くと「三体地蔵磨崖仏」に着く。道沿いの岩肌の見上げるよ

うな所に可愛い三體のお地蔵さんが彫られています。次に「ミロクの辻」にある弥勒摩崖仏を見物。風化で見づらいので目を凝らして見ました。山道ですがほぼ下りで手入れされており歩きやすい。

次は「一願不動」(不動明王立像)に向かいます。

「岩船寺奥の院」の修行場で崖の下に彫られている。一心にお願いすると一つだけ願い事を叶えてくれるそうでみんなで合掌。次の石仏に向けて手すりがある長い急な坂を下ると「わらい仏」に着く。

開けた明るい斜面にあって微笑みが可愛い阿弥陀三尊摩崖仏です。当尾を代表する石仏でアイドルだそうです。「わらい仏」のすぐ側に「眠り仏」があります。土の中に半分埋もれていますがあえて掘り起こさないで祀られているそうです。



岩船寺と浄瑠璃寺間にある『わらい仏』

次に歩いて 10 分ほどで「カラスの壺二尊(阿弥陀地藏磨崖仏)」に着きました。正面からは阿弥陀仏しか分かりませんが左側の面に地藏菩薩が彫られていました。一つの岩に面を変えて彫られているものでした。「あたご灯籠」を通りバス停もある車道に出ます。

ここまで来ると「浄瑠璃寺」まではもうすぐです。1 キロもありません。車道の脇のやぶの中に「やぶの中三尊摩崖仏」があります。1262 年の銘とあり当尾の石仏の中で最古の彫刻だそうです。

たくさんの石仏を見て歩いてきましたがここで一旦終わり「浄瑠璃寺」に着きました。計画よりも少し時間がかかったため浄瑠璃寺での滞在時間が 1 時間程度になってしまいました。浄瑠璃寺門でわらび餅など食べる計画だったのですがあきらめました。残念がっている方もおられました。すみません。

「浄瑠璃寺」は国宝の「九体阿弥陀如来像」が有名ですが他にも秘仏「吉祥天立像」(重文)や「薬師如来坐像」(重文)など多くの貴重な仏像が祀られておりゆっくり拝観しました。国宝の「本堂」「三重塔」の前で集合写真を撮り、浄土の池「宝池」を

ぐるっと回って浄瑠璃寺を出ました。



『宝池』と『三重塔(右奥)』

次に向かうのは「首切地蔵」です。なんとも恐ろしい名前ですが、「首が切れているわけではなく首のくびれが深く切れているように見える」とか「近くの処刑場にあったから」とか言われているようです。高さは1 mほど。1262 年作でこれも当尾の石仏の中で最古の石仏です。

5 分ほど歩くと「大門石仏群」。これは近くの竹藪の中や山道にあった石仏を集めて安置しなおしたもので色々な石仏がたくさん置かれていて圧巻でした。

15 分ほど進むと「大門仏谷」(如来形摩崖仏)です。道から谷を隔てた向こうの山肌に見える巨大な摩崖仏はインパクト十分です。幅6mの花崗岩に高さ2.8mの如来坐像が彫られています。

その大きさに驚きました。加藤さんが摩崖仏の直下まで行くと言われるので全員で荒れたわき道を下りました。すぐ下までは行けませんでした。近くから見上げる摩崖仏の大きさは圧巻でした。

行って良かったと！！

元の道まで登り返して最終目的地「加茂山の家バス停」に向け出発。15 分程歩いて 15 時 30 分にのどかな田園地帯にあるバス停に到着しました。バス停ではしばらくお茶やお菓子などを食べてのんびりしました。16 時 11 分発の木津川市コミュニティバスに乗り 25 分「JR 加茂駅」に 16 時 36 分到着解散しました。



大門仏谷の『如来形摩崖仏』

今回のPWは春の穏やかな好天に恵まれた中、たくさんの石仏を眺めながら、のんびりゆっくりと約2時間歩きました。可愛い石仏には心を癒されました。こんなPWもたまにはいいかなと思いました。

六甲・シェール道Pw

・実施日 2024 5/17(金) 報告 加藤 (11 期)

NHK の番組で、足の筋肉は第二の心臓といわれるくらいに大事で、それを鍛えるに坂を登るのが効果的。が、それよりも坂を下の方がさらに効果的・・・というのがあった。コロナ以降どうも心肺機能が低下してきたためか、もう長い登りには自信がない。よって、「下りで良い……」にどんなに勇気づけられたかわからない。



山中のお洒落すぎる『Café』

それではと、適当なコースは？と思案を巡らすと、まず摩耶ケーブルで摩耶山まで登り、そこから布引谷で新神戸駅まで下るか、途中で森林植物園の方へ行き、西鈴蘭台へ行くコースが浮かぶ。

しかし、このコースについては、桜谷出合へ下る徳川道Pwも、シェール道を下るPwも以前に実施した。地形図の等高線をじっくりと眺め、今回はその逆コースを歩くことにした。もちろん登りの緩いシェール道を選んだ。さらに調べると、布引川の源頭近くの穂高湖に三角屋根のお洒落な喫茶店ができていないか。しかも、超きれいなトイレがあるという。これは神の助け。なぜなら我が仲間にはトイレが近い人もいる。この喫茶店を終着地とすれば喜ばれるに相違ない。しかも、ここからバスを使い摩耶山にも六甲ケーブル

に行くことが出来るからである。この企画ならば我が心肺にも喜んでもらえるだろう。

9:45 神鉄・北鈴蘭台駅近くの森林植物園の送迎バス停に9名全員が集まった。バスの出発時刻は10:05であるが、乗客が多くて座れないことがあるので集合を早く設定したのだ。よって無事に座れ10分後には森林植物園に着いた。高齢である証明書を見せて入ろうとすると「今春から、神戸市民以外の人は無料でなくなったのです」と。

早い話が300円払えというのだ。これまでの無料は兵庫県人の特権でもあったが、特権が喪失した精神的ショックは大きい。しかも、今回はここを通過するだけの予定なのでなおさらである。

よって、森林植物園でゆっくり1時間ほど過ごし、東門から布引谷に出た。先日の雨のためか、谷の水が思ったより多くて、徳川道の飛び石も冠水するくらいの水量である。それでも徳川道の山道の方は谷筋でも良い場所を選んでつけているからか、しっかりしている。日差しが暑い。黄連谷出合付近の木陰で昼食を摂った。予想より登りがある。堰堤のたびに急登を要求してくるのだ。桜谷出合で一旦谷まで下る。ここで左岸に渉るが、ここの飛び石はさすがに大きな石を使っているのではほぼ冠水していない。ここから徳川道は桜谷出合から直接穂高湖へ行くのに対し、シェール道は遠回りする布引谷に沿っている。それだけにシェール道は緩いのだ。しかし、これが正解だったかどうか今でも疑問である。なぜなら、今や布引谷にいくつかの堰堤が造られ、それを越えるだけアップダウンがあるからだ。



『桜谷出合』の飛び石は特に大石を使っている

結局シェール道は支尾根を二回越える道となっていた。谷を下るときはさほど感じなかったのだが、遡行の時は意外と急坂で登らされた感じがした。しかし、このアップダウンも安全な道、かつ

谷歩きに変化を与えるスパイスかも知れない。



『布引谷』上流の傾いたまま架けられている橋

布引谷の最上流近くも昔に比べ相当に荒れていた。昔のこと、高村さんが当時は水平だった橋から滑って谷に落ちたことがある。しかも真冬だったから、どうなることかと思ったら、その谷底は砂地だったことと、冬、しっかりとスパッツを付けていたので、水が靴の中入る前にピョンピョンと跳ねて岸へと脱出することが出来たのだ。

あの時、谷で転んで骨折でもしていたらと思うと、今でもゾッとする。あの橋はどこだったのか、また砂地の場所すらわからない。

谷が細くなったあたりで車道に登る。車道といってもそれなりの道幅があるだけで舗装などなくガタガタ道である。ここで一旦休憩とした。もう穂高湖は近い。伊豫さんがコーヒを開業しても良いかと訊ねた。良いでしょうと答えたら、ここでもみんなのザックからいろいろな食べ物が出てきた。それだけに会話も弾む。14時20分。微妙な時刻である。穂高湖の喫茶店に立ち寄るとしたときの本数の少ないバスの時刻が微妙なのである。

これは行ったとこの勝負だ。穂高湖の堰堤までが20分、堰堤を越えるのが5分、そしてCaféには14時50分に着いた。平日だったためかCaféはガラガラだった。先日の開店時には長蛇の人で店員はてんてこ舞いだったというが、今はその気配すらない。先日の忙しさがあつてか、今日の閑静さに満足しているようにも見えた。

肝腎の摩耶山行きのバスの時刻は15:20でここからバス停まで10分を見ておけば十分とすると、ちょうどバスに乗れるのだ。つまり記念写真を撮り、一旦解散するのが賢明と判断した。

ここのCaféには、超きれいなトイレがありうまいコーヒが飲めるということだが、三宅さん、鈴木さんはバス停に向かい、伊豫夫妻、宇野さん、高村さんはなおも摩耶山まで歩くとのこと。トイレも使わずに行ってしまった。確かに今日の暑さ

で随分と汗をかいたので不要らしい。コーヒーのために1時間もここにいるのは退屈かも知れない。

結局のところ残ったのは篠島さんと加藤夫婦だけであった。Caféがお洒落の分だけ値段もお洒落だった。篠島さんはここなら車で来られるので、今度奥さんを連れて再訪するとのこと。



Caféから見える『シェール槍』

今日の暑さですぐいぶんと汗をかいたのでCaféの水をがぶがぶ飲んだ。水はもちろん無料だった。

1時間遅れのバスでも摩耶山で伊豫さんたちと合流できるのではないかと考えていたが、歩くといえども亀の如しで、我々より20分早いロープウェイですでに下山していた。

武庫川廃線跡Pw

・実施日 2024 6/13(木) 報告 井上 (16期)

本年前半の最終を飾るPwにしては、やや彩に欠ける感はあるものの、余り知られていない武田尾～生瀬間の廃線跡と武庫川を渡る恐ろしく幅の狭い橋二つを踏破する。気温も高くなって、熱中症の恐れがあるためか、何時もより参加者は少なめ。6名が参加した。いつもは11期の加藤さんと15期の三宅さんが企画しておられるが、今回はこの近くに住む私、井上に白羽の矢が立った。この場所は家から歩いて行ける近場。廃線跡の下見だけ済まし、本番を迎えた。



武庫川廃線跡『長尾山第1隧道』付近

JR 三田線武田尾駅に集合し、廃線跡を歩く。福知

山線は電化と複線化のため、昭和61、2年頃、路線変更となり、川べりを走っていた単線は廃線となった。それ以前に三田方面にお住まいの方には、この廃線跡はきっと懐かしいに違いない。6名全員揃うと、いざ、出発。最初にトンネルと出くわす。電灯はない。真っ暗な中、でこぼこしたグリ石を踏みしめながらゆっくりと歩く。懐中電灯の明るさが足りないと足元が覚束ない。あつ子さんは「100円ショップで買ったのよ」とライトを点けて見せた。100円ショップ恐るべし。足元がしっかりと浮き出て、いやに明るい。加藤さんが買い求めた強力懐中電灯は更に凄い。余りの光量に、他人に迷惑になると、カバーして弱めていた。それでも威力は流石のもの。トンネル全体が明るく浮かび上がる。皆、傍に身体を寄せ、芋虫の如く歩く。最初のトンネルは程よく短い。冷蔵庫の中のように、ひんやりとした癒しの空間である。



『亦楽山荘(桜の園)』

トンネルと過ぎると、笹部新太郎が桜演習林として各種の桜を植えた桜の園と呼ぶ広場に到着。笹部新太郎は明治中頃の人物。七高から東大で法学の道を歩んだ。ところが、どういう訳か桜に憑りつかれ、桜研究に一生を捧げた人物。春ならば見事な桜に圧倒されるであろうが、今は来春への英気を養うためか、緑の葉が生い茂っている。蒸し蒸しする中、木陰にいと川面のそよ風で、ひと時の安らぎを覚える。笹部新太郎と彼に仕えた植木職人の生涯を描いた「櫻守」(水上勉著)の小説を忘れてはならない。これをドラマ化し、林美智子と田村高廣が主演した昭和のNHK番組「櫻守」をかすかに覚えておられる方もあるかも知れない。ゆっくりと休憩し、在りし日の名優を偲びつつ、桜の園を後にした。

短いトンネルを二つほど過ぎす。暗さに慣れると、比較的歩きやすい。ところが四つ目のトンネルは、さすがに長い。暫く進むと暗黒の世界。トンネルの壁がぼんやりと浮かびあがる。進むにつれ、それが

覆いかぶさって来る。加藤さんの強力ライトでも出口まではとどかない。グリ石の踏む足音だけがやけに大きく木霊して来る。大勢の力ありがたいものだ。一人だと怖さに震え、立ち竦むに違いない。トンネルを出ると、左に武庫川の溪谷と奇岩の連続。



『武庫川第2橋梁』と『溝滝尾隧道(後方)』

中ほどで、食事にした。持ち寄ったお菓子を皆で分け合い、美味しさと共に和ませてもらった。近くに高座岩なる奇岩があるらしい。この岩に伝わる民話を加藤さんは話す。農家で育った息子が或る時、「雨に困ったなら、白馬の生き血をこの岩にかけると、雨を降らす」と言って、滝の精に姿を変え、川に帰ったと語る。加藤さんの蘊蓄にいつも感心させられる。しかしそれがハイキングの楽しみの一つなのだ。

やがて、問題の幅の狭い歩道橋に到着する。ここは私の家の近くながら、加藤さんに教えられるまで知らなかった。グーグルマップを幾ら拡大しても橋の姿かたちは現れない。遠方に住む方が、どうしてこんな橋を知っているのか不思議でならない。橋は水道管の上に設けられ、狭いながら、鉄骨のしっかりとした橋。対岸の青葉台地区には、下流に大きな車道橋がある。青葉台は橋が命の、閉ざされたエリアだ。この狭い歩道橋でも名塩方面へ行くには便利で、ありがたい存在なのだろう。歩道橋を難なく渡った。車道橋へでるには青葉台の峠を越えねばならない。これが一寸きつい急登。三宅さんの「ほぼ平坦」ではないか。「ほぼ平坦」とは、後で知ったことだが、京都大原から鞍馬に抜ける道で、「ほぼ平坦」と三宅さんが語ったところ、相当きつい上りだった様だ。それ以降、思わぬ急登を指す言葉に変わった。峠道の頂上で、一休みし、息を整える。

その後、下りはお手の物。川を渡ってすぐに、生瀬駅がある。ここまで来ると流石に暑い。駅舎の陰で涼んでも、暑さは治まらない。大先輩の智美さんは流石にこたえたのだろう。電車で宝塚に向かうとここで別れた。駅を出ると、暫くして、浄橋寺と言

う寺に着いた。この寺は鎌倉時代の末、寺の開祖がこの地を荒らす山賊に仏の道を説いて、武庫川に橋を架けさせ、「浄橋」と名付けたと伝わる。この橋の通行料が彼らの生活の糧になった様だ。ここ生瀬の街道は、有馬へ向かう要衝。ここから山道となるため、荷役人足や馬人足が住みつき、物流の拠点になった。その様子が「浄橋寺文書」と言う古文書に示されている。この橋を渡って隣の村が名塩。越前和紙の技術が伝わり、和紙の里として有名。もう一つ忘れてならない人物、八重さんがいる。大河ドラマ「八重の桜」で知られる新島襄の妻、八重さんも有名だが、こちらは適塾を開いた緒方洪庵の奥さんだ。洪庵亡き後、この地で蘭学を広めたため、蘭学者の多くがここを訪ねたと言う。その通りを「蘭学通り」と名付け、今も残っている。

ここを出ると、ウィルキンソン記念館を訪ねた。ウィルキンソンはイギリス人実業家で、日本に炭酸飲料を広めた人物。戦後、経営者が変わり、「バリエース・オレンジ」を生産した。銭湯で飲んだオレンジジュースの味を今も覚えている方はいるのではないだろうか。直ぐ目の前に、幅が60cmと更に狭い橋がある。日本記録認定協会が認定した日本一狭い橋だと言う。確かに狭い。水道管を点検するため作った橋を一般に開放したもの。この地域に住む人にとって、宝塚の駅へ行くには便利な橋だ。川幅も広がり、結構長い。この橋はスリムな方でないと交差ができない。「若い女性との交差なら楽しみ」と不届きな話が出る。若い女性なら渡り終えるまで待っているに違いないと思いつつ、領いてしまう。



日本一狭い橋『生瀬水管橋』

そうこうお喋りしつつ歩いていると、あっという間に宝塚駅に到着。宝塚に着くと、智美さんが待っていた。安堵の気持ちなのか、汗が流れ落ちた。無事にハイキングを終えたことに感謝する。そして心はもう次のパーワンに移っていた。

古知谷阿弥陀寺Pw

・実施日 2024 10/9(水) 報告 加藤 (11期)

やはり京都かな。姫路あたりでも良いのだろうけ

どみなさんのアクセスの便利さを考えると京都が良い。それに京都は歴史的话题に富んでいる。問題はインバウンドによる人の多さである。で、捜していくと大原の奥にも寺があるではないか。

調べると紅葉の寺とある。季節外れの10月なら人が少ないだろう。実にいい加減な発想である。10月はダイヤモンドソウとある。あまりパツとしないが、何かあればよい。

なおも調べると、木喰なる人が江戸時代に開いたとある。あの仏像をたくさん彫った人かと思ったらそうではなく、木喰とは菜食主義でも穀物すら食べない聖人らしい。とにかくここに決めた。下見をせずとも便利な世の中だ。HPでなんとかなる。



阿弥陀寺の駐車場

当日の集合前に、偶然にも地下鉄国際会館駅の改札口で、桑名からの森川さんを含めほぼ全員が集まった。早着の井上さんの誘導で少し離れたバス停へ。名古屋からの野村さんが欠伸をしていた。

バスはここ始発が便利なのだ。京都駅から大原へ向かうバスもあるが、市内を抜けるのに時間がかかるので、これが良策なのだ。切符も地下鉄・バス共通一日券なら1,100円で大原まで往復できる。案内のHPにその旨を書いておいたが、誰一人気づいていなかった。悲しい。

怪しい天気予報だったが前日から好転した。小雨でもなんとか時間つぶしに対応できるのが京都である。10時13分発のバスは20分で終点の大原BTに着いた。

トイレなど済ませ、10時45分敦賀街道を北に向け出発。ここから約2kmの旧道を歩く。時折り来る車を気にするだけ、旧道はそんなに広くないので、車の方でもこちらが年寄りだからか気にしてくれる。この季節さしたるものが見当たらない。ミゾソバの仲間やシオンなどの秋菊があるくらい。といってもこちらあまり野の草を知らないの、見えていないのかも知れない。



竜宮風の『阿弥陀寺』山門

11時20分頃に「洛北の名刹阿弥陀寺」の大きな看板が見えてきた。ここが駐車場らしい。看板の裏は大きな紅葉の木。紅葉の頃はここだけでも見事だろうと思われる木である。奥に中国風の山門が見えた。我々の年代なら竜宮風といった方がピンとくる。看板を背景に記念写真を撮ったが、山門の前でも撮った。門はもっと寺に近いところにあると思っていたのだが、ずいぶんと街道の近くだった。

この門から寺へ舗装の道がついている。しかし、思ったより急なのだ。登るにしたがい急になってゆき、最後の寺は城のような石垣の上に建っていた。舗道の案内するまま最後の階段を上ると受付があり、そこで入山料を納めた。寺まで標高差150m弱であるが30分を要した。

ちょうど正午だったので、境内で食事してよいかと尋ねると、「庭では困ります。客間にテーブルを二つ置いてあるのでそこを使ってください。テーブルが少し狭いかも知れませんが・・・」。

この寺は花の寺、一見して手入れしてあることがうかがえる。幸いその時の客は我々だけだったのでそのような配慮をされたのかも知れない。人の多いときはそうはいかないだろう。



阿弥陀寺は下から見ると城のよう

寺は斜面を使っていろんな建物が段状に建っていると思ったが、ほぼ同じ地面に建っているのが驚いた。客間というと10畳ぐらいの部屋かと思ったら、開け放しの一棟全体だった。その中にちょこん

と長机が2台置いてあった。

寺に興味のある人は、本堂やこの寺の開基である弾誓(タベイ)上人の窟屋に向かい、腹が減った何人かは持参の食事をはじめた。時間差で食べれば、この机でも決して狭くはない。それにしてもこんなに良い場所で食事をさせてくれるのは京都では珍しいのでは。一気にこの寺の好感度が上がった。

縁側越しに今が盛りのダイモンジソウやこの部屋から続く本堂とその前庭が見える。

古刹というが、創設が江戸初期だからそんなに古くはない。しかし、弾誓の生き方がすごい。それは省略しても、死に方もすごい。最期は弟子たちに裏山に窟屋を彫らせ、その穴の中で人々の救済を願い入滅したという。近年になってから、骨を拾おうと窟屋を開けたらミイラになっていたのを、石龕に収め元の窟屋に置いたそうである。



客間で食事がいただけるありがたさ

そのような記述を読んでいたのも、窟屋というからには寺から離れていて、とてもそこへは行けないと想像していたのだが、窟屋は寺のすぐ後ろの崖にあり、廊下伝いで行けると教えてもらった。えっ、そんな簡単に！！石龕は開けることはできないが(開けたら怖くていけないかも)窟屋を見に来ることにした。

窟屋は立つことのできるくらいの高さで、中で座禅を組みことも出来そうな広さだった。ちょっと不気味だったけど、弾誓を身近に感じた。本堂には鎌倉時代の立派な阿弥陀仏もあるが、ここのご本尊は弾誓が自分自身を彫ったというもので、弾誓仏と呼ばれている。本堂では、弾誓仏も重要文化財の阿弥陀仏も近くで見られる。昔々の京都のようだ。

庭に入ってコマクサが咲いているのに驚いた。聞けば二度咲き株かも知れないと教えてくれた。この標高なら花が咲くのは8月までぐらいが限度だろうに。六甲高山植物園でよく見るノコギリソウ花もあるが、咲く季節もおかしい。これも「シムシュ(占守)ノコギリソウ」とのこと尋常の寺ではない。

当日、みなさんには、占守島がアリューションと言いつ張ったが、アツツ島と間違えてました。ゴメンなさい。占守島は千島列島の一番北の島です。



阿弥陀寺本堂の前庭にて

よく見るといろんな花が植えられている。しかも季節的に珍しいものもあった。ダイモンジソウも普通に見る花と違う。只者ではないような品種があるようだ。盛んに咲いていたのがマツムラソウ(初めて見た)、エンシュウハグマと背丈の高いテイショウソウ。カリガネソウもウメバチソウも咲いていた。

石垣にはキイジョウロウホトトギスの群落が垂れ下がっていた。

大原は人であふれているのに、ここを訪れる人は本当に少ないという。しかし、花の寺でもあるこの寺の雰囲気が入って再訪する人も多いとのこと。季節ごとに訪れる人もいるのだとも。

何の努力もしないのに、企画者の株が上がったPwであった。

さいごに

近畿支部では、参加者の年々の減少と企画内容の軟弱さが目立つようになってきています。これについては、ほぼ発足当初からの会員主体で運営し続けている老齢化のためです。よって、ここでの報告は近畿支部本体欠如のシルバー会の活動とみなしご覧ください。

近畿支部本体の立ち上げについては、昨年の総会の席で20期以降のOBに、現シルバー会状態の活動に遠慮することなく、好きな運営方法で活動してくださいとお願いしました。多分、水面下で動き始めてくれているものと思っています。早く水面に上がって見える形で活躍されることを期待しています。

参考 2023 年秋以前の活動

近畿支部の活動まとめ（2022年秋以降） 名前に添字のある方は女性、○（ ）は期です。

2022 10/28(金)	磯城・山邊Pw（企画 加藤） 参加者12名
金岩⑤ 伊豫⑧ 伊豫a⑩ 加藤⑪ 加藤s⑪ 森川⑪ 赤地⑫ 鈴木⑮ 高村c⑮ 三宅⑮ 井上⑯ 黒崎(22)	
長柄駅～大和神社～山の辺の道～歯定神社（昼食）～長岳寺～崇神天皇陵～黒塚古墳～五智堂～柳本駅	
2022 11/14(月)	六甲・菊水山Pw（企画 加藤s、高村c） 参加者12名
金岩⑤ 伊豫⑧ 篠島⑧ 伊豫a⑩ 加藤⑪ 加藤s⑪ 上馬⑮ 宇野a⑮ 鈴木⑮ 高村c⑮ 間所m⑮ 三宅⑮	
神鉄鈴蘭台駅～菊水山登山口～菊水山～登山口～妙号岩の下～石井ダム～立ヶ畑ダム～石井橋バス停	
2022 12/5(月)	京都・大悲閣Pw（企画 伊豫、加藤） 参加者12名
伊豫⑧ 高水間t⑧ 伊豫a⑩ 畔山⑪ 加藤⑪ 加藤s⑪ 森川⑪ 宇野a⑮ 鈴木⑮ 高村c⑮ 間所m⑮ 三宅⑮	
阪急嵐山駅～中の島～大悲閣～渡月小橋～法輪寺～松尾大社～地藏院～浄住寺～阪急上桂駅	
2023 1/20(金)	高槻茨木古墳巡りPw（企画 三宅） 参加者16名
金岩⑤、伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、畔山⑪、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、野村⑫、赤地k⑭、上馬⑮、宇野⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯	
摂津富田駅＝氷室～今城塚歴史館～ハニワ工場公園～京大地震観測所～阿武山～阿武山口＝出発点	
2023 2/20(月)	姫路城の堀と城門巡りPw（企画 加藤） 参加者14名
金岩⑤、伊豫⑧、黒崎⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、赤地⑫、野村⑫、赤地k⑭、宇野⑮、宇野a⑮、鈴木⑮、三宅⑮、井上⑯	
京口駅～外堀・中堀巡り～姫路総社～イーグル姫路～三の丸～男山～内堀巡り～車門跡～姫路駅	
2023 3/27(月)	石清水八幡宮と背割り桜Pw（企画 三宅） 参加者11名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野⑮、宇野a⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯	
京阪石清水八幡宮駅～単伝庵～泰勝寺～男山展望台～八幡宮本殿～安居橋～背割り桜～八幡宮駅	
2023 4/25(火)	再々京都・長尾山Pw（企画 加藤） 雨天中止
2023 5/10(火)	再々々京都・長尾山Pw（企画 加藤） 参加者8名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯	
京都駅＝梅ヶ畑清水町～平岡八幡宮～長刀峠～長尾山～京見峠～菖蒲谷池～嵯峨天皇陵～大覚寺	
2023 6/12(月)	君影ロックガーデンと朝ドラPw（企画 高村c、加藤s） 雨天中止
2023 6/26(月)	武田・京都薬用植物園見学Pw（特別企画 加藤） 参加者6名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、高村c⑮	
叡電修学院駅～鷲森神社～京都薬用植物園（見学）～曼殊院（国宝黄不動参観）～叡電一乗寺駅	
	
<京都『浄住寺』で集う近畿支部参加者2022年晩秋>	